



熊本県知的障がい者施設親善スポーツ大会(ペタンク) 10月5日(日)ecowin宇土アリーナ



## 「広報紙なんかい」終刊

### 今後、情報発信はSNS等へ移行

長年にわたり、施設の様子や利用者さんの活動を紙面でお伝えしてきた「広報紙なんかい」は、本号をもちまして幕を閉じることとなりました。3カ月に1回、1年に4回のペースで発行し、140という回を重ねることができました。単純に計算すると35年間です。創刊以来、地域の皆さまやご家族の方々に支えられ、多くのご縁と温かい励ましをいただきながら歩んでまいりましたこと、心より感謝申し上げます。

今後、対外的な情報発信はSNSを活用し、新しい形で皆さまに情報をお届けしてまいります。なお、ご家族の皆さまには引き続き紙面にて利用者さんの様子等をお届けする予定です。

長い間のご愛読に重ねて感謝申し上げます。

## 人権研修会に参加して

生活支援員 松本 昌子

今回の研修は「支援者の支援」という利用者支援を行うにあたり、基本的な支援者側の支援はどうか？という事に軸をおき考える研修会で、当施設から私を含め職員3名で参加させてもらいました。福祉職において知識や技術は勿論ですがその根底には価値や倫理があり心があるということ、また3つの技法として①リフレミング、②価値と倫理との繋がりを言語化、③外在化などのお話が特に印象に残りました。よりよい支援を提供するにあたり先ずは提供する側である私達支援員が安定した気持ちでいる事、心があることが大切です。それは利用者さんに対してだけでなく、仕事を共にする同僚に対しても同じで、些細なことでも声掛けや相手を思いやることの必要性を再確認させてもらいました。

3つの技法においてはある状況や考えなどを、角度を変えた視点で捉え、新しい意味付けをする事や、人と問題を切り離し考え、よい距離感

を保つこと、言葉として表現し相手に伝えることの必要性や、周りの状況次第で見方が変わることなどのお話でした。研修会のなかでは講義だけでなくペアワークという事で席が近い方といろいろなシチュエーションでの声かけの仕方やその時にどう感じたか？どのような声掛けが適切であるか？なども実践的に行い、和やかな研修会でありました。声掛けの仕方により捉え方にも差がありますが、些細なことでも気づき、励まし合うことは、モチベーションアップにもとても有効なことであります。日々色々な業務に追われるなかで忘れがちですが、まずは支援の原点に立ち職員同士がお互いに励ましあい高め合いながら支え合う事で、より良い職場環境と、支援に繋がっていくと思います。

支援員の一人として、同僚としてそのような環境づくりが出来るよう配慮しながら今後業務に当たっていききたいです。

## 災害ボランティアに参加して

相談支援専門員 原田 幸真

8月30日、熊本県社会福祉士会の天草・水俣芦北ブロック合同研修会が天草で開催されるとの事で私も参加を申し込みました。研修内容は「災害支援ソーシャルワークについて学び、ブロック間の連携を考える」という内容でしたが、8月11日の豪雨災害を受け、研修会は延期となり、同会で災害復旧のボランティア活動を行う事となりました。

当日は天草市ボランティアセンターに会員約20名が集まり、栖本町にあるお寺（西真寺様）の床下の清掃作業を行う事となりました。

現地に着し、他の団体と一緒にお寺本堂の床下に入り作業を開始。豪雨で流れ込んだ土砂の層約10cmを十能で土嚢に入れ、バケツリレーで外に運び出す作業の繰り返しでした。他の2団体と合わせ総勢約40名で4時間作業を行い、

掻き出した土砂は土嚢400袋を超えました。

作業終盤、被災されたお寺の方に話を伺うと、ボランティアの方に作業してもらったのは今日が初めてとの事でした。被災されて20日間、先の見えない生活はさぞ不安だっただろうと話を伺い感じました。私自身、以前近くの高齢者施設に勤務していた事があり、勝手に親近感を感じていたのですが、その後さらに話をしていると同町で福祉サービス事業所を運営されている代表の方でした。

たまたまボランティア活動させていただけいた場所に何か不思議な縁を感じた一日でした。





# ビアガーデン

今年は「牛深 SUMMER ランタンフェスティバル」を参考に、色とりどりのランタンで雰囲気も楽しんでいただきました！



# 親善スポーツ大会 in 宇土



# 本町町民運動会



# 利用者・職員合同研修会

～ 虐待されたら「やめて」と言おう～



虐待防止の取り組みとして、施設は年1回以上の職員研修、虐待防止委員会の設置、責任者の配置が義務付けられています。南海寮は年に2、3回の研修を行っています。今回は利用者様へ伝える事と職員が共に学ぶ事を目的に、合同研修会を開催しました。

まず、利用者さんの思い等を知る為に事前にアンケートを行ったところ、呼称については約7割が「○○さん」と呼ばれた。意見箱の設置場所も虐待もよく知らない。との回答でした。研修では虐待（言葉、接し方）意見箱の使用方法、場所などを、イラストや動画、クイズを用いて、参加形式で楽しく理解を深められるように取り組み、まとめでは、お互いに敬意を持った呼称「○○さん」や言葉づかい、「やめて」と伝える大切さを共有できました。

当日は利用者・職員あわせて100名以上の参加があり、利用者の発言や反応も多く、殆どの方に最後まで参加していただきました。今後も虐待防止委員会を中心に、皆が笑顔で安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。

虐待防止委員会委員長

大仁田 美穂



## 野菜作りにチャレンジ!!

昨年、事業所内の一部をリフォームし、通所をご利用される方々の活動場所として新たな環境づくりを始めました。活動を考えてる中で、外での活動を増やしたい、また利用者の皆さんが協力しながらそれぞれの役割を持って取り組めることはないかと考え、野菜栽培を取り入れることにしました。調理実習にも活用しようと思い、比較的育てやすいナスとピーマンの夏野菜を育てることにしました。

今回の野菜づくりを通して、「育てて、食べる」、さらには「販売して、還元される」という流れが、利用者さんにとって、達成感や喜びを感じられる経験になったと思います。今後も利用者さんにやりがいや、楽しみを感じられるような活動を提供していければと思います。

生活支援員 倉田 一平



# あいむだより

9月のJUMP会（自治会）では今回趣を変え、～お団子を食べて十五夜気分を味わおう～と題して開催しました。お団子の種類は芋あん、いきなり団子、きなこの3種類から選んでもらいました。一番人気は「いきなり団子」でした。やっぱり皆さんに熊本の魂が宿っているからでしょうか？（笑）

ちなみに、私も選んだのはいきなり団子でした。

ススキを背景に写真を撮ったりして、みなさん楽しい雰囲気でも過ごされていました。

JUMP会ではみなさんお団子でリラックス出来たせいとか普段と違う意見が出ていました。その中の1つが『外食をしたい』との意見でした。詳しく尋ねると、ご家庭でもみなさん外食はされているとの事でしたが、「あいむ」のメンバーで外出し食事をしたい。という事でした。

仲間と一緒に食べるご飯は美味しいでしょうね！！

確かに、以前は定期的に外食を実施していましたが、コロナ禍は外出を控えており、それ以降そのままになった計画がいくつかあります。『普通の生活に戻す』という考えが不足している事に私たちも気づかされました。

話を戻して次に、『何を食べにいきいたい？』という質問には

- ・ラーメン
- ・焼肉
- ・かき氷
- ・ハンバーグ
- ・寿司
- ・パフェ 等色々な回答を頂きました。

みなさん炭水化物好きですね、私もです。（笑）

極力みなさんの希望がかなうように計画したいと思います。

次回のあいむだよりは『島内外食編（鬼滅の刃風）』が書けるかもしれないので楽しみに！！（笑）

